

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次前期	回数	15 回	時間数	30 時間
科目名	人間の尊厳と自立	授業の方法	講義	実務経験の有る教員による科目		
<p>授業の到達目標</p> <p>人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>①人間の尊厳と自立、介護における尊厳の保持・自立支援のあり方について理解する。</p> <p>②人間の多面的理解、自立・自律の理解を深める。</p> <p>③利用者の権利や権利侵害について理解し、権利擁護について誓いする。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回 人間の多面的理解</p> <p>第2回 人間の尊厳(1)</p> <p>第3回 人間の尊厳(2)</p> <p>第4回 自立とは</p> <p>第5回 自律とは</p> <p>第6回 権利擁護</p> <p>第7回 アドボカシー</p> <p>第8回 人権尊重</p> <p>第9回 身体的な自立支援(1)</p> <p>第10回 身体的な自立支援(2)</p> <p>第11回 精神的な自立支援(1)</p> <p>第12回 精神的な自立支援(2)</p> <p>第13回 社会的な自立支援(1)</p> <p>第14回 社会的な自立支援(2)</p> <p>第15回 まとめ</p>						
<p>テキスト</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座1 人間の理解」 中央法規2019年</p>						
<p>授業時間外での学習</p> <p>授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。</p>						
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。</p> <p>評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。</p> <p>60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。</p>						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次前期	回数	15 回	時間数	30 時間
科目名	人間関係とコミュニケーション	授業の方法	講義	実務経験の有る教員による科目		
<p>授業の到達目標</p> <p>介護実践に必要な人間の理解や他者への情報伝達に必要な基礎的コミュニケーション能力を養う。</p> <p>人間関係の形成について学び、必要なコミュニケーションの基礎を習得する。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>①人間関係の形成の仕組みを体験しコミュニケーションの基本を理解</p> <p>②人間関係の中で自分と他者を理解する</p> <p>③人の発達に伴う人間関係の広がりを学ぶ</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回 人間関係の心理(1)</p> <p>第2回 人間関係の心理(2)</p> <p>第3回 対人関係とコミュニケーション(1)</p> <p>第4回 対人関係とコミュニケーション(2)</p> <p>第5回 コミュニケーションのための環境</p> <p>第6回 コミュニケーションの技術～対人距離</p> <p>第7回 コミュニケーションの技術～言語的コミュニケーション</p> <p>第8回 コミュニケーションの技術～非言語的コミュニケーション</p> <p>第9回 コミュニケーションの技術～受容・共感・傾聴①</p> <p>第10回 コミュニケーションの技術～受容・共感・傾聴②</p> <p>第11回 コミュニケーションの技術～受容・共感・傾聴③</p> <p>第12回 コミュニケーションの技術～機器を用いたコミュニケーション 点字・手話・パソコン・手紙①</p> <p>第13回 コミュニケーションの技術～機器を用いたコミュニケーション 点字・手話・パソコン・手紙②</p> <p>第14回 コミュニケーションの技術～機器を用いたコミュニケーション 点字・手話・パソコン・手紙③</p> <p>第15回 コミュニケーションの技術～総合演習</p>						
<p>テキスト</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座1 人間の理解」 中央法規2019年</p>						
<p>授業時間外での学習</p> <p>授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。</p>						
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。</p> <p>評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。</p> <p>60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。</p>						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年後期	回数	15 回	時間数	30 時間
科目名	社会福祉概論	授業の方法	講義	実務経験の有る教員による科目		
<p>授業の到達目標</p> <p>現代社会における社会福祉の意義、理念について理解する。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>①社会福祉の意義を理解し、種々の制度の内容を学び、介護業務の実際に役立てる。</p> <p>②社会福祉の全体像を理解し、尊厳の保持に繋げることが出来る。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回 社会福祉の理念と概要</p> <p>第2回 社会福祉の対象と主体</p> <p>第3回 社会福祉需要と保障の変容および社会福祉の発展</p> <p>第4回 地域福祉の概念、地域福祉の内容と推進組織およびその担い手</p> <p>第5回 地域福祉計画及び財源</p> <p>第6回 社会福祉法制の体系および運営組織</p> <p>第7回 福祉サービスの提供と利用、社会福祉の財政と費用負担</p> <p>第8回 社会福祉における公私の役割、調整</p> <p>第9回 所得保障制度、医療保障制度の概要</p> <p>第10回 介護保険制度、雇用・就労制度および住宅制度の概要</p> <p>第11回 生涯教育・障害教育制度の概要</p> <p>第12回 障害者自立支援の制度 現状と展望</p> <p>第13回 介護実践に関連する諸制度</p> <p>第14回 個人情報保護と成年後見制度</p> <p>第15回 社会福祉従事者の概要、必要性および専門性 福祉資格法の目的と内容</p>						
<p>テキスト</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座2 社会の理解」</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座1 人間の理解」 中央法規2019年</p>						
<p>授業時間外での学習</p> <p>授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。</p>						
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。</p> <p>評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。</p> <p>60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。</p>						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次前期	回数	15 回	時間数	30 時間
科目名	社会福祉援助技術論	授業の方法	講義	実務経験の有る教員による科目		
<p>授業の到達目標</p> <p>対人関係におけるコミュニケーションを活用し、相談援助の理論と方法を学ぶ。ロールプレイを通して、相談援助を行う事ができる。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>①ソーシャルワークの考え方・内容・実践方法について理解する。</p> <p>②各回のテーマに即した実践場面でのロールプレイを行う。</p> <p>③「相談援助」とは何かを理解する。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 ソーシャルワーク・相談援助とは何か</p> <p>第3回 ソーシャルワークの目的と価値</p> <p>第4回 相談援助の基本的な枠組み</p> <p>第5回 相談援助における援助関係</p> <p>第6回 相談援助の展開過程</p> <p>第7回 ソーシャルワークの方法:直接援助(1)</p> <p>第8回 ソーシャルワークの方法:直接援助(2)</p> <p>第9回 ソーシャルワークの方法:間接援助</p> <p>第10回 ソーシャルワークの方法:関連技術</p> <p>第11回 自己決定・エンパワメント</p> <p>第12回 ソーシャルワークをめぐる今日的課題(1)</p> <p>第13回 ソーシャルワークをめぐる今日的課題(2)</p> <p>第14回 ソーシャルワークをめぐる今日的課題(3)</p> <p>第15回 まとめ</p>						
<p>テキスト</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座1 人間の理解」</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座1 人間の理解」 中央法規2019年</p>						
<p>授業時間外での学習</p> <p>授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。</p>						
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。</p> <p>評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。</p> <p>60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。</p>						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次前期	回数	15 回	時間数	30 時間
科目名	社会制度の理解	授業の方法	講義	実務経験の有る教員による科目		
<p>授業の到達目標</p> <p>介護サービス利用主体の生活や社会背景を理解し、サービスを提するのに必要な行政施策の仕組みや、サービス利用にかかわる主な法制度体系について習得する。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>生活と社会福祉の現状を把握し、福祉施策にかかる様々な法体系を知ることで、介護業務上把握しておくべき法律について知り、活用する方法を学ぶ。</p> <p>実際の介護業務を行う上で必要な法律を理解し、適切なサービス利用に活用することが出来る。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回 私たちの生活と社会福祉</p> <p>第2回 現代におけるライフスタイルの変化と生活の支援および福祉の体系</p> <p>第3回 社会保障の仕組み ①社会保障の基本的な考え方</p> <p>第4回 社会保障の仕組み ②日本の社会保障制度の発達と仕組み、社会保障制度の現状</p> <p>第5回 介護保険制度のあり方①制度創設の背景と目的、その仕組み</p> <p>第6回 介護保険制度のあり方②制度に関わる組織とその役割</p> <p>第7回 介護保険制度のあり方②制度に関わる専門職の役割</p> <p>第8回 介護保険制度のあり方③制度の動向と介護職</p> <p>第9回 障害者の自立支援を担う法制度のあり方①障害者の自立と制度のしくみ</p> <p>第10回 障害者の自立支援を担う法制度のあり方②制度に関わる組織とその役割、専門職の役割</p> <p>第11回 これからの障害福祉施策の方向性と介護職</p> <p>第12回 介護実践にかかわる諸制度①人々の権利を保障する制度</p> <p>第13回 介護実践にかかわる諸制度①保健医療にかかわる諸施策</p> <p>第14回 介護実践にかかわる諸制度①生活を支える諸制度のあらまし</p> <p>第15回 介護実践にかかわる諸制度①高齢者・障害者の住生活を支援する諸制度</p>						
<p>テキスト</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座2 社会の理解」</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座1 人間の理解」 中央法規2019年</p>						
<p>授業時間外での学習</p> <p>授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。</p>						
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。</p> <p>評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。</p> <p>60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。</p>						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次後期	回数	15 回	時間数	30 時間
科目名	生活とレクリエーション	授業の方法	講義 演習	実務経験の有る教員による科目		
授業の到達目標 生活の質を高める取り組みは介護福祉士の重要な責務である。この観点から、レクリエーションの意義を理解し、利用者の笑顔を引き出す介護を行う手段として、チームとしてレクリエーションを利用する技術を身につける。						
授業の概要 ①レクリエーション活動がもたらす、生活の質の向上について理解 ②適切なレクリエーションの提供手法を身につける。 ③レクリエーションを通して、ご利用者様の生活の質を向上 ④家族や介助者間のコミュニケーションを円滑にし、介護業務の成果を上げる技術						
授業計画 第1回 レクリエーションのイメージ 第2回 レクリエーションの定義 第3回 レクリエーションの意義を考える 第4回 レクリエーション指導の在り方と指導者として役割①対象者の理解 第5回 レクリエーション指導の在り方と指導者として役割②提供者の体制 第6回 レクリエーション指導の在り方と指導者として役割③具体的立案 第7回 レクリエーション指導の在り方と指導者として役割④対象者の反応に応じた提供の仕方(高齢者) ① 第8回 レクリエーション指導の在り方と指導者として役割④対象者の反応に応じた提供の仕方(高齢者) ② 第9回 レクリエーション指導の在り方と指導者として役割④対象者の反応に応じた提供の仕方(高齢者) ③ 第10回 レクリエーション指導の在り方と指導者として役割④対象者の反応に応じた提供の仕方(障害者) ① 第11回 レクリエーション指導の在り方と指導者として役割④対象者の反応に応じた提供の仕方(障害者) ② 第12回 レクリエーション指導の在り方と指導者として役割④対象者の反応に応じた提供の仕方(障害者) ③ 第13回 レクリエーション指導の在り方と指導者として役割④対象者の反応に応じた提供の仕方(児童) ① 第14回 レクリエーション指導の在り方と指導者として役割④対象者の反応に応じた提供の仕方(児童) ② 第15回 レクリエーション指導の在り方と指導者として役割④対象者の反応に応じた提供の仕方(児童) ③						
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座1 人間の理解」 中央法規2019年						
授業時間外での学習 授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準 前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。 評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次通年	回数	30 回	時間数	60 時間
科目名	生活とレクリエーション	授業の方法	講義 演習	実務経験の有る教員による科目		
授業の到達目標 生活の質を高める取り組みは介護福祉士の重要な責務である。この観点から、レクリエーションの意義を理解し、利用者の笑顔を引き出す介護を行う手段として、チームとしてレクリエーションを利用する技術を身につける。						
授業の概要 ①レクリエーション活動がもたらす、生活の質の向上について理解 ②適切なレクリエーションの提供手法を身につける。 ③レクリエーションを通して、ご利用者様の生活の質を向上 ④家族や介助者間のコミュニケーションを円滑にし、介護業務の成果を上げる技術						
授業計画 第1回 ライフスタイルとレクリエーションの多様性 ① 第2回 ライフスタイルとレクリエーションの多様性 ② 第3回 レクリエーションの取り組みと安全および危機管理 ① 第4回 レクリエーションの取り組みと安全および危機管理 ② 第5回 レクリエーション事業とは 第6回 レクリエーション指導における留意事項 ① 第7回 レクリエーション指導における留意事項 ② 第8回 レクリエーション提供後の考察ならびに持続・継続の検討と課題 高齢者 第9回 レクリエーション提供後の考察ならびに持続・継続の検討と課題 障害者 第10回 レクリエーション提供後の考察ならびに持続・継続の検討と課題 児童 第11回 レクリエーション活動計画の実際 高齢者 第12回 レクリエーション活動計画の実際 障害者 第13回 レクリエーション活動計画の実際 第14回 利用者の状況に応じたレクリエーションの立案と実施(活動の能力と環境) 第15回 利用者の状況に応じたレクリエーションの立案と実施(チームでの検討) 第16回 レクリエーションの実施と生活活動意欲の向上(検証) 第17回 レクリエーションの実施と生活活動の持続性(検証) 第18回 レクリエーションとリハビリテーション効果 第19回 レクリエーションとリラクゼーション効果 第20回 レクリエーションとリラクゼーション効果 第21回 レクリエーションの実施計画と実践①季節感を大切に 第22回 検証 第23回 レクリエーションの実施計画と実践②仲間を増やすとくみ 第24回 検証 第25回 レクリエーションの実施計画と実践③継続性を持たせるために 第26回 検証 第27回 レクリエーションの実施計画と実践④適度な変化と安心感 第28回 検証 第29回 レクリエーションの実施計画と実践 ⑤評価 第30回 検証						
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座1 人間の理解」 中央法規2019年						
授業時間外での学習 授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準 前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。 評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次	回数	30 回	時間数	60 時間
科目名	介護の基本 I	授業の方法	講義 実習	実務経験の有る教員による科目	○ 介護福祉士	
授業の到達目標						
介護サービスを提供する対象・場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識を理解できる。						
授業の概要						
①介護サービスの実践にむけ、理念や意義を理解する。						
②介護サービスの考え方を身に付けられるよう、様々な角度から取り上げる。						
③尊厳の保持・自立支援という新しい介護の考え方と介護の現状を理解する。						
③個別介護の基本的考え方を理解する。						
授業計画						
第1回	オリエンテーション					
第2回	生活とは何か					
第3回	生活の特性					
第4回	高齢者の暮らしを支える介護					
第5回	障害を持った人の暮らしを支える介護					
第6回	「その人らしさ」とその背景					
第7回	「その人らしさ」を支える介護					
第8回	生活ニーズの把握					
第9回	生活障害の理解					
第10回	生活環境の重要性					
第11回	中間まとめ 1					
第12回	介護の成り立ち(日本)					
第13回	介護の成り立ち(集団から個別へ)					
第14回	介護の味方、考え方の変化					
第15回	利用者に合わせた生活支援(個別ケア)					
第16回	自立に向けた支援					
第17回	介護の専門性(介護保険法において)					
第18回	介護の専門性(役割変化)					
第19回	介護職が行う生活支援(身体介護と意義)					
第20回	介護職が行う生活支援(家事援助と意義)					
第21回	介護職が行う生活支援(相談業務)					
第22回	介護職が行う生活支援(その他の支援)					
第23回	尊厳を支える介護とは					
第24回	QOL(生活の質について)					
第25回	ノーマライゼーション					
第26回	ICF(国際生活分類について)					
第27回	介護におけるICFのとらえ方					
第28回	ICFの視点に基づくアセスメント					
第29回	介護実践におけるリハビリテーション					
第30回	リハビリテーション専門職との連携					
テキスト						
介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座3 介護の基本 I 中央法規2019年						
介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座4 介護の基本 II 中央法規2019年						
授業時間外での学習						
授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準						
前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。試験結果にレポートの評価を加えて成績評価を行う。						
評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。						
60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次後期 2年次前期	回数	30 回	時間数	60 時間
科目名	介護の基本Ⅱ	授業の方法	講義 実習	実務経験の有る教員による科目	○ 介護福祉士	
授業の到達目標 介護サービスを提供する対象・場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識を理解できる。						
授業の概要 ①介護サービスの実践にむけ、理念や意義を理解する。 ②介護サービスの考え方を身に付けられるよう、様々な角度から取り上げる。 ③尊厳の保持・自立支援という新しい介護の考え方と介護の現状を理解する。 ④個別介護の基本的考え方を理解す						
授業計画 第1回 介護福祉士を取り巻く状況 第2回 求められる介護福祉士像(歴史的経緯) 第3回 求められる介護福祉士像の明確化 第4回 社会福祉士及び介護福祉士法(概要) 第5回 社会福祉士及び介護福祉士法(各項) 第6回 介護福祉士の倫理綱領(概要) 第7回 介護福祉士の倫理綱領(各項) 第8回 倫理基準(行動規範) 第9回 事例検討(施設ケア) 第10回 事例検討(ケアにおける倫理的判断) 第11回 介護サービスの意味と特性 第12回 ケアマネジメントの意味としくみ 第13回 地域連携の意義と目的 第14回 地域連携の実際 第15回 まとめ 第16回 介護保険サービスの提供の場と特性(訪問) 第17回 介護保険サービスの提供の場と特性(通所、入所系) 第18回 介護保険サービスの実際(施設概要) 第19回 介護保険サービスの実際(介護職の役割) 第20回 介護保険サービスの実際(多職種連携) 第21回 高齢者施設見学(まとめと振り返り) 第22回 障害福祉サービス提供の場と特性 第23回 障害福祉サービスの実際(施設概要) 第24回 障害福祉サービスの実際(介護職の役割) 第25回 障害福祉サービスの実際(多職種連携) 第26回 障害福祉施設見学(まとめと振り返り) 第27回 事例検討(在宅ケア) 第28回 事例検討(在宅ケアにおける倫理的判断) 第29回 事例検討(グループホーム) 第30回 総まとめ						
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座3 介護の基本Ⅰ 中央法規2019年 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座4 介護の基本Ⅱ 中央法規2019年						
授業時間外での学習 授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準 前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。試験結果にレポートの評価を加えて成績評価を行う。 評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次	回数	30 回	時間数	60 時間
科目名	介護の基本Ⅲ	授業の方法	講義	実習	実務経験の有る教員による科目	○ 介護福祉士
<p>授業の到達目標</p> <p>他領域で学んだ人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生活を営めるよう生活環境を整える事を学び理解できる。介護福祉士に求められている倫理観について深く考察し、自分の介護観を説明できる。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>①様々な場面における危機管理能力を養い、生活環境を整えるための視点を具体的に説明ができる。</p> <p>②求められる介護福祉士像を明確にイメージし、自身の倫理観・介護観をのべることができる。</p> <p>③対人援助職としての実践的コミュニケーション能力を身に付け、活用することができる。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回 介護における安全の確保(リスクマネジメント)</p> <p>第2回 危険予知訓練(基本編)</p> <p>第3回 危険予知訓練(応用編)</p> <p>第4回 介護実践の場の理解(概要理解)</p> <p>第5回 介護実践の場の理解(職務理解)</p> <p>第6回 介護実践の場の理解(他)</p> <p>第7回 感染管理のための方策</p> <p>第8回 生活の場での感染対策</p> <p>第9回 感染対策の基礎知識</p> <p>第10回 レクリエーションの目的理解</p> <p>第11回 実施における留意点と計画、立案、準備</p> <p>第12回 レクリエーション演習(実践)</p> <p>第13回 レクリエーション演習(振り返り)</p> <p>第14回 倫理考慮に基づく実践(導入)</p> <p>第15回 倫理考慮に基づく実践(実際)</p> <p>第16回 倫理考慮に基づく実践(振り返り)</p> <p>第17回 地域交流の目的理解</p> <p>第18回 計画、立案、準備</p> <p>第19回 地域交流の実践(導入)</p> <p>第20回 地域交流の実践(実際)</p> <p>第21回 地域交流の実践(振り返り)</p> <p>第22回 地域交流における成果と課題</p> <p>第23回 介護職の健康管理(意義と目的)</p> <p>第24回 介護職の健康管理(知識と技術)</p> <p>第25回 介護職の健康管理(知識と技術)</p> <p>第26回 事例検討(支援方法)</p> <p>第27回 事例県と宇(結論)</p> <p>第28回 終末期ケア(介護の役割)</p> <p>第29回 終末期ケア(知識と技術)</p> <p>第30回 総まとめ</p>						
<p>テキスト</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座3 介護の基本Ⅰ 中央法規2019年</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座4 介護の基本Ⅱ 中央法規2019年</p>						
<p>授業時間外での学習</p> <p>授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。</p>						
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。試験結果にレポートの評価を加えて成績評価を行う。</p> <p>評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。</p> <p>60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。</p>						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次通年	回数	30 回	時間数	60 時間
科目名	コミュニケーション技術	授業の方法	実習	実務経験の有る教員による科目	○ 介護福祉士	
授業の到達目標 介護を必要とする者の理解や援助関係、援助的コミュニケーションについて理解し、コミュニケーション能力身に付ける。						
授業の概要 ①コミュニケーションの基本的技法から利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技法を理解する。 ②介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションについて説明できる。 ③介護実践に携わるチームのコミュニケーションについて説明することができる。						
授業計画 第1回 介護におけるコミュニケーションの基本(意義・目的) 第2回 介護におけるコミュニケーションの基本(意義・目的) 第3回 利用者・家族とのコミュニケーション(話を聴くこと) 第4回 利用者・家族とのコミュニケーション(話を聴く技法) 第5回 利用者・家族とのコミュニケーション(質問する) 第6回 利用者・家族とのコミュニケーション(質問の技法) 第7回 利用者・家族とのコミュニケーション(感情表現を察する) 第8回 利用者・家族とのコミュニケーション(意欲を引き出すための技法) 第9回 利用者・家族とのコミュニケーション(相談、助言、指導について) 第10回 利用者・家族とのコミュニケーション(相談、助言、指導の技法) 第11回 利用者・家族とのコミュニケーション(意向の調整、複数の利用者の場面について) 第12回 利用者・家族とのコミュニケーション(意向の調整、複数の利用者の場面での対処法) 第13回 チームのコミュニケーション(記録について) 第14回 チームのコミュニケーション(記録による情報共有化) 第15回 チームのコミュニケーション(報告、連絡、相談、会議) 第16回 コミュニケーション障害の理解 第17回 コミュニケーション障害のある利用者への対応(講義) 第18回 コミュニケーション障害のある利用者への対応(演習) 第19回 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際(身体障害) 第20回 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際(認知症) 第21回 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際(知的障害、精神障害) 第22回 コミュニケーション障害に関する事例検討(演習1) 第23回 コミュニケーション障害に関する事例検討(演習2) 第24回 チームのコミュニケーション 第25回 記録について 第26回 報告、連絡、相談について 第27回 会議について 第28回 事故アセスメント 第29回 課題整理 第30回 まとめ						
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座5 コミュニケーション技術」 中央法規2019年 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座1 人間の理解」 中央法規2019年						
授業時間外での学習 授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準 前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。試験結果にレポートの評価を加えて成績評価を行う。 評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次前期	回数	30 回	時間数	60 時間
科目名	生活支援技術A	授業の方法	演習 実技	実務経験の有る教員による科目	○ 介護福祉士	
授業の到達目標 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる知識や技術について習得する。						
授業の概要 ①基本的な介護技術におけるそれぞれの意義と目的の理解 ②さまざまな日常生活場面での観察の視点を養い、説明が出来る ③介助におけるポイントや留意点をふまえ、安全で正確な介助を実施できる ④その時の状況や個別性の応じて支援方法を適切に判断、選別する						
授業計画 第1回 生活支援技術オリエンテーション(自立支援) 第2回 ベッドメイキングの意義と目的、留意点 第3回 ベッドメイキング(具体的注意点 コーナー) 第4回 ベッドメイキング(具体的な注意点 シーツのしわ) 第5回 ベッドメイキング(まとめ) 第6回 ボディメカニクス 第7回 体位変換(移動、移乗)の意義と目的、留意点 第8回 体位変換(水平移動) 第9回 体位変換(仰臥位 側臥位) 第10回 体位変換(まとめ) 第11回 移動における福祉用具の理解と歩行介助(平地) 第12回 移動における福祉用具の理解と歩行介助(段差) 第13回 中間まとめ 第14回 車椅子の基本理解 第15回 車椅子の基本操作 第16回 車椅子の応用操作 第17回 車椅子の操作(屋外等) 第18回 移乗介助の基本動作 第19回 移乗介助の応用動作 第20回 移乗介助の様々な方法 第21回 移乗介助のまとめ 第22回 身だしなみを整える意義と目的、留意点 第23回 身だしなみの介助 第24回 衣服着脱の意義と目的、留意点 第25回 衣服着脱の介助 第26回 食事の意義と目的、留意点 第27回 食事介助 第28回 口腔ケアの意義と目的、留意点 第29回 口腔ケアの介助 第30回 まとめ						
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士講座6 生活支援技術Ⅰ」 介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士講座7 生活支援技術Ⅱ」 中央法規2019年						
授業時間外での学習 授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準 前期後期の定期試験で、履修範囲について実技試験と筆記試験を行う。 評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科		開講時期	1年次前期	回数	30 回	時間数	60 時間
科目名	生活支援技術A	授業の方法	演習 実技	実務経験の有る教員による科目		○ 介護福祉士	
授業の到達目標 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる知識や技術について習得する。							
授業の概要 ①生活の様々な場面を想定し、必要な介護の知識と技術を身につける。 ②現場実習で必要な介護技術を身につけ、実践力を高める。							
授業計画 第1回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴の意義と目的、入浴に関する利用者のアセスメント 第2回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 爽快感・安楽を支える介護 第3回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 入浴① 第4回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 入浴② 第5回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 シャワー浴① 第6回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 シャワー浴② 第7回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 全身清拭① 第8回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 全身清拭② 第9回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 足浴・手浴① 第10回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 足浴・手浴② 第11回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 陰部洗浄① 第12回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 陰部洗浄② 第13回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 洗髪① 第14回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法 洗髪② 第15回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 利用者の状況に応じた介助の留意点 感覚機能低下 第16回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 利用者の状況に応じた介助の留意点 運動機能低下 第17回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 利用者の状況に応じた介助の留意点 認知・知覚機能低下 第18回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 他の職種の役割と協働 第19回 自立に向けた排泄の介護 排泄の意義・目的、排泄に関する利用者のアセスメント 第20回 自立に向けた排泄の介護 気持ちよい排泄を支える介護 がまんさせない・恥ずかしくない環境づくり 第21回 自立に向けた排泄の介護 安全・的確な排泄の介助の技法 ①トイレ 第22回 自立に向けた排泄の介護 安全・的確な排泄の介助の技法 ②ポータブルトイレ 第23回 自立に向けた排泄の介護 安全・的確な排泄の介助の技法 ③採尿器・差し込み便器 第24回 自立に向けた排泄の介護 安全・的確な排泄の介助の技法 ④おむつ 第25回 自立に向けた排泄の介護 利用者の状態・状況に合わせた介助の留意点 感覚機能低下 第26回 自立に向けた排泄の介護 利用者の状態・状況に合わせた介助の留意点 運動機能低下 第27回 自立に向けた排泄の介護 利用者の状態・状況に合わせた介助の留意点 認知・知覚能低下 第28回 自立に向けた排泄の介護 利用者の状態・状況に合わせた介助の留意点 便秘・下痢の予防 第29回 自立に向けた排泄の介護 利用者の状態・状況に合わせた介助の留意点 尿回数過多・失禁時 第30回 自立に向けた排泄の介護 他の職種の役割と協働							
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座7 生活支援技術Ⅱ」 中央法規2019年							
授業時間外での学習 授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。							
成績評価の方法・基準 前期後期の定期試験で、履修範囲について実技試験と筆記試験を行う。 評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。							

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次前期	回数	30 回	時間数	60 時間
科目名	生活支援技術C	授業の方法	演習 実技	実務経験の有る教員による科目	○ 介護福祉士	
授業の到達目標 家庭生活の中で、人としての自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守りを含めた適切な介護技術を用い、安全に支援できる知識と技術が身に着くことができる。その前提として基本的な生活知識、技術を習得することが出来る。						
授業の概要 ①生活の様々な場面を想定し、必要な介護の知識と技術を身につける。 ②家庭生活にかかわる基本的知識や技術を身に付け、実践することが出来る。 ③家事支援の意義や目的について理解し、適切な介護技術を実践できる。						
授業計画 第1回 生活を理解する視点 第2回 家庭生活の営みとは 第3回 生活設計の考え方 第4回 食生活の基本知識 第5回 献立のたて方 第6回 食品の購入と選択、食品衛生・調理の基本 第7回 食品の調理性 第8回 高齢者及び障害のある人の栄養と食事 第9回 調理実習(日常食)① 第10回 調理実習(日常食)② 第11回 自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 調理① 第12回 自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 調理② 第13回 自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 調理③ 第14回 家事支援の意義と目的、留意点 第15回 家事支援における 家事の介助の技法 調理① 第16回 家事支援における 家事の介助の技法 調理② 第17回 自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 洗濯① 第18回 自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 洗濯② 第19回 自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 掃除・ゴミ捨て① 第20回 自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 掃除・ゴミ捨て② 第21回 自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 掃除・ゴミ捨て③ 第22回 自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 掃除・ゴミ捨て④ 第23回 自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 掃除・ゴミ捨て⑤ 第24回 自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 掃除・ゴミ捨て⑥ 第25回 自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 裁縫① 第26回 自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 裁縫② 第27回 自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 衣類・寝具の衛生管理① 第28回 自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 衣類・寝具の衛生管理② 第29回 自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 買い物 第30回 自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 家庭経営・家計の管理						
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士講座6 生活支援技術Ⅰ」 介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士講座7 生活支援技術Ⅱ」 中央法規2019年						
授業時間外での学習 授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準 前期後期の定期試験で、履修範囲について実技試験と筆記試験を行う。 評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科		開講時期	2年次前期		回数	30 回	時間数	60 時間
科目名	生活支援技術D	授業の方法	演習	実技	実務経験の有る教員による科目		○ 介護福祉士	
授業の到達目標 1年で習得した基礎知識及び技術を活かして、介護実践の場において個別性に応じた対応ができるように安定した技術と応用的技術を身に付けることができる。また、介助における留意点やその根拠を明確に理解し、自分の言葉で説明ができるようになる。								
授業の概要 ①生活の様々な場面を想定し、基本留意事項をふまえた安定した介助ができる。 ②基本的な生活支援技術をふまえ、状況に応じた応用技術を展開する事ができる。 ③介護の留意点やその根拠について自分の言葉で説明する。								
授業計画 第1回 自立に向けた移動の介護 安全で的確な移動・移乗の介助の技法① 車椅子の介助実習 第2回 自立に向けた移動の介護 安全で的確な移動・移乗の介助の技法① 車椅子の介助実習 第3回 自立に向けた移動の介護 安全で的確な移動・移乗の介助の技法① 車椅子の介助実習 第4回 自立に向けた移動の介護 安全で的確な移動・移乗の介助の技法① 車椅子の介助実習 第5回 自立に向けた移動の介護 安全で的確な移動・移乗の介助の技法① 車椅子の介助実習 第6回 自立に向けた移動の介護 安全で的確な移動・移乗の介助の技法① 車椅子の介助実習 第7回 自立に向けた移動の介護 安全で的確な移動・移乗の介助の技法④ 体位変換の実習 第8回 自立に向けた移動の介護 安全で的確な移動・移乗の介助の技法④ 体位変換の実習 第9回 自立に向けた移動の介護 安全で的確な移動・移乗の介助の技法④ 体位変換の実習 第10回 自立に向けた移動の介護 安全で的確な移動・移乗の介助の技法④ 体位変換の実習 第11回 自立に向けた移動の介護 安全で的確な移動・移乗の介助の技法④ 体位変換の実習 第12回 自立に向けた移動の介護 安全で的確な移動・移乗の介助の技法④ 体位変換の実習 第13回 自立に向けた介護 生活の中のリハビリテーション技法① 第14回 自立に向けた介護 生活の中のリハビリテーション技法② 第15回 自立に向けた介護 生活の中のリハビリテーション技法③ 第16回 自立に向けた家事の介護 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点 感覚機能・運動機能・認知・知覚機能の低下 第17回 自立に向けた家事の介護 他の職種の役割と協働 第18回 自立に向けた睡眠の介護 睡眠の意義・目的、睡眠に関する利用者のアセスメント 第19回 自立に向けた睡眠の介護 安眠のための介護 第20回 自立に向けた睡眠の介護 安眠を促す介助の技法 第21回 自立に向けた睡眠の介護 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点 感覚機能・運動機能・認知・知覚機能の低下 第22回 自立に向けた睡眠の介護 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点 不眠時の対応 他職種の役割と協働 第23回 終末期の介護 終末期における介護の意義、目的 第24回 終末期の介護 終末期における介護の意義、目的 第25回 終末期の介護 終末期における利用者のアセスメント 第26回 終末期の介護 医療との連携 第27回 終末期の介護 医療との連携 第28回 終末期の介護 終末期における介護 第29回 終末期の介護 臨終時の介護 第30回 終末期の介護 グリーフケア								
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士講座8 生活支援技術Ⅲ」								
授業時間外での学習 授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。								
成績評価の方法・基準 前期後期の定期試験で、履修範囲について実技試験と筆記試験を行う。 評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。								

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科		開講時期	2年次前期		回数	30 回	時間数	60 時間
科目名	生活支援技術E		授業の方法	演習 実技	実務経験の有る教員による科目		○ 介護福祉士	
<p>授業の到達目標</p> <p>外見から分かりにくい、内部障害のある人の生活のしづらさを理解し、それぞれの病態に応じてどのような介護の在り方が望ましいかを理解し、実践できる。</p>								
<p>授業の概要</p> <p>①視覚障害、聴覚言語障害に起因する問題とニーズの理解 ②運動機能障害に起因する問題とニーズの理解 ③内部障害に起因する問題とニーズの理解 ④知的、精神障害に起因する問題とニーズの理解</p>								
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 障害者への介護とその理解 第3回 視覚障害に応じた介護 第4回 視覚障害に応じた介護の実際 第5回 聴覚・言語障害に応じた介護 第6回 聴覚・言語障害に応じた介護の実際 第7回 運動機能障害に応じた介護 第8回 運動機能障害に応じた介護の実際 第9回 内部障害に応じた介護(心機能) 第10回 内部障害に応じた介護(心機能)の実際 第11回 内部障害に応じた介護(腎機能) 第12回 内部障害に応じた介護(腎機能)の実際 第13回 内部障害に応じた介護(膀胱直腸機能) 第14回 内部障害に応じた介護(膀胱直腸機能)の実際 第15回 内部障害に応じた介護(呼吸機能) 第16回 内部障害に応じた介護(呼吸機能)の実際 第17回 内部障害まとめ 第18回 知的障害に応じた介護 第19回 知的障害に応じた介護の実際 第20回 精神障害に応じた介護 第21回 精神障害に応じた介護の実際 第22回 高次脳機能障害に応じた介護 第23回 高次脳機能障害に応じた介護の実際 第24回 発達障害に応じた介護 第25回 発達障害に応じた介護の実際 第26回 重複障害に応じた介護(盲ろう) 第27回 重複障害に応じた介護(盲ろう)の実際 第28回 認知症介護の基本視点と医学的理解 第29回 認知症介護の介護 第30回 まとめ</p>								
<p>テキスト</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士講座8 生活支援技術Ⅲ」</p>								
<p>授業時間外での学習</p> <p>授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。</p>								
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>前期後期の定期試験で、履修範囲について実技試験と筆記試験を行う。 評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。</p>								

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次前期	回数	15 回	時間数	30 時間
科目名	介護過程 I	授業の方法	講義 演習	実務経験の有る教員による科目	○ 介護福祉士	
<p>授業の到達目標</p> <p>介護過程を展開し、介護計画を立案し、利用者の尊厳を守るケアや個別ケアを実現する事を理解する。 介護過程の全体像とアセスメントが理解できる。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>①介護過程の意義と目的を理解できる ②介護過程のプロセスを理解し、説明できる。 ③介護過程の全体像のうち、アセスメントは何かを説明できる。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回 問題解決のための思考 第2回 介護過程の意義、目的 第3回 介護過程の理解(全体像) 第4回 アセスメントとは(情報収集) 第5回 アセスメントとは(解釈、統合化) 第6回 介護過程と記録(意義と目的) 第7回 介護過程と記録(実際) 第8回 情報収集の目的 第9回 基本的な情報とその必要性 第10回 基本的な情報とまとめ方 第11回 ICFに基づくアセスメント 第12回 ICFに基づくアセスメント(具体的方法) 第13回 情報収集の方法と留意点 第14回 アセスメントの実際 第15回 アセスメントの実際(具体的方法)</p>						
<p>テキスト</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座9 介護過程」 中央法規2019年</p>						
<p>授業時間外での学習</p> <p>授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。</p>						
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。試験結果にレポートの評価を加えて成績評価を行う。 評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。</p>						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次後期	回数	30 回	時間数	60 時間
科目名	介護過程Ⅱ	授業の方法	実習 演習	実務経験の有る教員による科目	○ 介護福祉士	
<p>授業の到達目標</p> <p>介護過程を展開し、介護計画を立案し、利用者の尊厳を守るケアや個別ケアを実現する事を理解する。 介護過程の全体像とアセスメントが理解できる。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>①介護過程の意義と目的を理解できる ②介護過程のプロセスを理解し、説明できる。 ③介護過程の全体像のうち、アセスメントは何かを説明できる。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回 授業の進め方・アセスメントとは 第2回 アセスメントとは 第3回 ニーズの抽出の考え方 第4回 ニーズの抽出の考え方と方法 第5回 生活上の課題について 第6回 事例の演習(特養でのアセスメント) 第7回 事例の演習(特養での課題) 第8回 事例の演習(特養での計画) 第9回 事例の演習(障害施設でのアセスメント) 第10回 事例の演習(障害施設での課題) 第11回 事例の演習(障害施設での計画) 第12回 事例の演習(老健でのアセスメント) 第13回 事例の演習(老健での課題) 第14回 事例の演習(老健での計画) 第15回 まとめ 第16回 チームアプローチにおける介護福祉士の役割 第17回 情報の解釈、関連付け、統合化とは 第18回 情報の解釈、関連付け、統合化の方法 第19回 課題抽出 第20回 課題の優先順位 第21回 課題の明確 第22回 課題の表現 第23回 個別援助計画の意義と目的 第24回 ケアの標準化と個別化の視点 第25回 目標の設定 第26回 具体的援助方法 第27回 援助内容の記述方法 第28回 介護計画(個別援助計画書)の実際 第29回 介護過程とケアマネジメントの関係性 第30回 まとめ</p>						
<p>テキスト</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座9 介護過程」 中央法規2019年</p>						
<p>授業時間外での学習</p> <p>授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。</p>						
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。試験結果にレポートの評価を加えて成績評価を行う。 評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。</p>						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次通年	回数	30 回	時間数	60 時間
科目名	介護過程Ⅲ	授業の方法	講義 演習	実務経験の有る教員による科目	○ 介護福祉士	
<p>授業の到達目標</p> <p>介護過程を展開し、介護計画を立案し、利用者の尊厳を守るケアや個別ケアを実現する事を理解する。 介護過程の全体像とアセスメントが理解できる。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>①介護過程の意義と目的を理解できる ②介護過程のプロセスを理解し、説明できる。 ③介護過程の全体像のうち、アセスメントは何かを説明できる。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回 授業の進め方・アセスメントとは 第2回 アセスメントとは 第3回 ニーズの抽出の考え方 第4回 ニーズの抽出の考え方と方法 第5回 生活上の課題について 第6回 事例の演習(特養でのアセスメント) 第7回 事例の演習(特養での課題) 第8回 事例の演習(特養での計画) 第9回 事例の演習(障害施設でのアセスメント) 第10回 事例の演習(障害施設での課題) 第11回 事例の演習(障害施設での計画) 第12回 事例の演習(老健でのアセスメント) 第13回 事例の演習(老健での課題) 第14回 事例の演習(老健での計画) 第15回 まとめ 第16回 チームアプローチにおける介護福祉士の役割 第17回 情報の解釈、関連付け、統合化とは 第18回 情報の解釈、関連付け、統合化の方法 第19回 課題抽出 第20回 課題の優先順位 第21回 課題の明確 第22回 課題の表現 第23回 個別援助計画の意義と目的 第24回 ケアの標準化と個別化の視点 第25回 目標の設定 第26回 具体的援助方法 第27回 援助内容の記述方法 第28回 介護計画(個別援助計画書)の実際 第29回 介護過程とケアマネジメントの関係性 第30回 まとめ</p>						
<p>テキスト</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座9 介護過程」 中央法規2019年</p>						
<p>授業時間外での学習</p> <p>授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。</p>						
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。試験結果にレポートの評価を加えて成績評価を行う。 評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。</p>						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次前期	回数	15 回	時間数	30 時間
科目名	介護総合演習 I	授業の方法	演習	実務経験の有る教員による科目	○ 介護福祉士	
授業の到達目標 介護実習の教育効果を上げるため、学内において準備・実習先への事前挨拶・介護実習中の個別指導などを行う						
授業の概要 ①介護実習の意義と目的を説明することができる ②介護実習を行う施設等の概要について説明できる ③実習における心構えや基本的態度を身に付け、それぞれを説明できる ④体験を通して成果と課題を明確にし、報告できる。						
授業計画 第1回 実習施設について、事前調査し、実習の目的を明確にする。 第2回 実習施設について、事前調査し、実習の目的を明確にする。 第3回 自分なりの実習の具体的な目標を定める。 第4回 自分なりの実習の具体的な目標を定める。 第5回 実習先の事前挨拶に出向き、打ち合わせを行う。 第6回 実習先の事前挨拶に出向き、打ち合わせを行う。 第7回 実習先の事前挨拶に出向き、打ち合わせを行う。 第8回 実習先での打ち合わせ内容から、実習前に準備しておくことを纏める。 第9回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。1日分 第10回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。1日分 第11回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。1日分 第12回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。1日分 第13回 実習後に報告会を実施。他の実習先の報告も踏まえ、学習を深める。 第14回 実習後に報告会を実施。他の実習先の報告も踏まえ、学習を深める。 第15回 実習の目標と達成事項を確認し、次の実習の目標を定める。						
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座10 介護総合演習・介護実習」						
授業時間外での学習 授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準 前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。試験結果にレポートの評価を加えて成績評価を行う。 評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次後期	回数	15 回	時間数	30 時間
科目名	介護総合演習Ⅱ	授業の方法	演習	実務経験の有る教員による科目	○ 介護福祉士	
授業の到達目標 介護実習の教育効果を上げるため、学内において準備・実習先への事前挨拶・介護実習中の個別指導などを行う。						
授業の概要 ①介護実習の意義と目的を説明することができる ②介護実習を行う施設等の概要について説明できる ③実習における心構えや基本的態度を身に付け、それぞれを説明できる ④体験を通して成果と課題を明確にし、報告できる。						
授業計画 第1回 実習施設について、事前調査し、実習の目的を明確にする。 第2回 自分なりの実習の具体的な目標を定める。 第3回 実習先の事前挨拶に出向き、打ち合わせを行う。 第4回 実習先の事前挨拶に出向き、打ち合わせを行う。 第5回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。1日分 第6回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。1日分 第7回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。1日分 第8回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。1日分 第9回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。2日分 第10回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。2日分 第11回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。2日分 第12回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。2日分 第13回 実習後に報告会を実施。他の実習先の報告も踏まえ、学習を深める。 第14回 実習後に報告会を実施。他の実習先の報告も踏まえ、学習を深める。 第15回 実習の目標と達成事項を確認し、次の実習の目標を定める。						
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座10 介護総合演習・介護実習」						
授業時間外での学習 授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準 前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。試験結果にレポートの評価を加えて成績評価を行う。 評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次前期	回数	15 回	時間数	30 時間
科目名	介護総合演習Ⅲ	授業の方法	演習	実務経験の有る教員による科目	○ 介護福祉士	
授業の到達目標 介護実習の教育効果を上げるため、学内において準備・実習先への事前挨拶・介護実習中の個別指導などを行う。						
授業の概要 ①介護実習における自己課題と到達目標を明確に持ち実践できる ②介護実習の多様な現場について概要や、そこでの介護福祉士の役割を理解する。 ③実践の振り返りをとおして成果と課題について考察する。 ④体験を通して、職業倫理や介護観を養い、のべることができる。						
授業計画 第1回 実習施設について、事前調査し、実習の目的を明確にする。 第2回 自分なりの実習の具体的な目標を定める。 第3回 実習先の事前挨拶に出向き、打ち合わせを行う。 第4回 実習先の事前挨拶に出向き、打ち合わせを行う。 第5回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。1日分 第6回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。1日分 第7回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。1日分 第8回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。1日分 第9回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。2日分 第10回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。2日分 第11回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。2日分 第12回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。2日分 第13回 実習後に報告会を実施。他の実習先の報告も踏まえ、学習を深める。 第14回 実習後に報告会を実施。他の実習先の報告も踏まえ、学習を深める。 第15回 実習の目標と達成事項を確認し、次の実習の目標を定める。						
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座10 介護総合演習・介護実習」						
授業時間外での学習 授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準 前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。試験結果にレポートの評価を加えて成績評価を行う。 評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次後期	回数	15 回	時間数	30 時間
科目名	介護総合演習Ⅳ	授業の方法	演習	実務経験の有る教員による科目	○ 介護福祉士	
授業の到達目標 介護実習の教育効果を上げるため、学内において準備・実習先への事前挨拶・介護実習中の個別指導などを行う。						
授業の概要 ①介護実習における自己課題と到達目標を明確に持ち実践できる ②介護実習の多様な現場について概要や、そこでの介護福祉士の役割を理解する。 ③実践の振り返りをとおして成果と課題について考察する。 ④体験を通して、職業倫理や介護観を養い、のべることができる。						
授業計画 第1回 実習施設について、事前調査し、実習の目的を明確にする。 第2回 自分なりの実習の具体的な目標を定める。 第3回 実習先の事前挨拶に出向き、打ち合わせを行う。 第4回 実習先の事前挨拶に出向き、打ち合わせを行う。 第5回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。1日分 第6回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。1日分 第7回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。1日分 第8回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。1日分 第9回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。2日分 第10回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。2日分 第11回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。2日分 第12回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。2日分 第13回 実習後に報告会を実施。他の実習先の報告も踏まえ、学習を深める。 第14回 実習後に報告会を実施。他の実習先の報告も踏まえ、学習を深める。 第15回 4回の実習報告から学び得たことをまとめ、現場で活かしたい自分の学びを纏める。						
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座10 介護総合演習・介護実習」						
授業時間外での学習 授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準 前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。試験結果にレポートの評価を加えて成績評価を行う。 評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次・2年次	回数	回	時間数	290 時間						
科目名	介護実習 I	授業の方法	実習	実務経験の有る教員による科目	○ 介護福祉士							
<p>授業の到達目標</p> <p>利用者の生活の場である多様な介護現場において利用者理解を中心とし、利用者とのコミュニケーションの実践、他職種協働の実践、介護技術の確認をおこなうことができる。</p>												
<p>授業の概要</p> <p>①利用者及び職員に適切な挨拶をすることができる</p> <p>②利用者の反応に応じて基本的な態度で話を聞く事ができる。</p> <p>③利用者の生活や環境に関心を持ち、かかわりを通して心身の特徴を説明する事ができる</p> <p>④安全・安楽に基本的介護技術を体験し、適切に振り返りができる。</p>												
<p>授業計画</p> <table> <tr> <td>第1ステップ実習</td> <td>5日間</td> </tr> <tr> <td>第2ステップ実習</td> <td>17日間</td> </tr> <tr> <td>第3ステップ実習</td> <td>22日間</td> </tr> </table>							第1ステップ実習	5日間	第2ステップ実習	17日間	第3ステップ実習	22日間
第1ステップ実習	5日間											
第2ステップ実習	17日間											
第3ステップ実習	22日間											
<p>テキスト</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座10 介護総合演習・介護実習 」</p>												
<p>授業時間外での学習</p> <p>授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。</p>												
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>レポート、出席及び外部の評価を加えて成績評価を行う。</p> <p>評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。</p> <p>60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。</p>												

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次	回数	回	時間数	160 時間
科目名	介護実習Ⅱ	授業の方法	実習	実務経験の有る教員による科目	○ 介護福祉士	
<p>授業の到達目標</p> <p>利用者の生活の場である多様な介護現場において利用者理解を中心とし、利用者とのコミュニケーションの実践、他職種協働の実践、介護技術の確認をおこなうことができる。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>①利用者及び職員に適切な挨拶をすることができる</p> <p>②利用者の反応に応じて基本的な態度で話を聞く事ができる。</p> <p>③利用者の生活や環境に関心を持ち、かかわりを通して心身の特徴を説明する事ができる</p> <p>④安全・安楽に基本的介護技術を体験し、適切に振り返りができる。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第4ステップ実習 17日間</p>						
<p>テキスト</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座10 介護総合演習・介護実習」</p>						
<p>授業時間外での学習</p> <p>授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。</p>						
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>レポート、出席及び外部の評価を加えて成績評価を行う。</p> <p>評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。</p> <p>60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。</p>						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次通年	回数	30 回	時間数	60 時間
科目名	発達と老化の理解	授業の方法	講義	実務経験の有る教員による科目		
授業の到達目標						
<p>発達の見点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。</p>						
授業の概要						
<p>① 人間の成長と発達の基礎的理解 ② 老年期の発達と成熟 ③ 老化に伴うこととからだの変化と日常生活 ④ 高齢者と健康</p>						
授業計画						
第1回	人間の成長と発達の基礎知識					
第2回	人間の発達段階と発達課題 発達理論(エリクソン)					
第3回	身体的機能の成長と発達					
第4回	心理的機能の発達(ピアジェ)					
第5回	社会的機能の発達					
第6回	老年期の特徴と発達課題(老年期定義と老化・フレイル、ロコモシンドローム)					
第7回	老年期の特徴と発達課題(ハヴィガースト、喪失・フロイト悲嘆過程)					
第8回	老化に伴う身体的な変化(生理機能の低下)					
第9回	老化に伴う身体的な変化(骨格・脳神・感覚系・消化器系)					
第10回	老化に伴う身体的な変化(循環器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系・免疫系)					
第11回	老化に伴う心理的な変化 記憶・認知機能の変化(記憶)					
第12回	老化に伴う心理的な変化 記憶・認知機能の変化(知能)					
第13回	老化に伴う心理的な変化 適応機制					
第14回	老化に伴う心理的な変化 適応機制					
第15回	老化に伴う社会的な変化と生活への影響					
第16回	老化に伴う身体的な変化 生理機能の変化、記憶・認知機能の変化(復習)					
第17回	高齢者に多い症状、疾患の特徴					
第18回	高齢者に多い症状、訴え(痛み めまい)					
第19回	高齢者に多い症状、訴え(不眠 誤嚥)					
第20回	高齢者に多い疾患 生活習慣病					
第21回	高齢者に多い疾患 骨・関節系の病気					
第22回	高齢者に多い疾患 歯 口腔 目 耳 皮膚の病気の病気					
第23回	高齢者に多い疾患 呼吸器の病気					
第24回	高齢者に多い疾患 腎・膀胱の病気					
第25回	高齢者に多い疾患 脳・神経の疾患1					
第26回	高齢者に多い疾患 脳・神経の疾患2					
第27回	高齢者に多い疾患 消化器、循環器系疾患					
第28回	高齢者に多い疾患 精神疾患 感染症					
第29回	健康長寿に向けて 薬剤の知識					
第30回	保健医療職との連携					
テキスト						
介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座12 発達と老化の理解」 中央法規2019年						
授業時間外での学習						
授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準						
前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。						
評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。						
60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次	回数	20 回	時間数	40 時間
科目名	認知症の理解	授業の方法	講義	実務経験の有る教員による科目		
授業の到達目標						
認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。						
授業の概要						
① 認知症を取り巻く状況 ② 医学的側面から見た認知症の基礎 ③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④ 連携と協働 ⑤ 家族への支援						
授業計画						
第1回 認知症の介護に向けて						
第2回 本人主体の視点を確かなものに						
第3回 認知症の人の体験						
第4回 認知症ケアの歴史						
第5回 認知症ケアの理念と視点						
第6回 認知症とは(総論)						
第7回 認知症とは(各論)						
第8回 認知症の診断						
第9回 認知症の原因疾患と治療						
第10回 まとめ						
第11回 認知症の原因疾患と治療						
第12回 認知症の予防						
第13回 認知症の人の行動症状						
第14回 認知症の人の心理症状						
第15回 認知症の人の心理的理解(総論)						
第16回 認知症の人の心理的理解(各論) 認知症とは(総論)						
第17回 家族への支援(基本)						
第18回 家族への支援(応用)						
第19回 認知症の人を地域で支える(基本)						
第20回 認知症の人を地域で支える(応用)						
テキスト						
介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座12 発達と老化の理解」 中央法規2019年						
授業時間外での学習						
授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準						
前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。						
評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。						
60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次	回数	10 回	時間数	20 時間
科目名	認知症の理解 2	授業の方法	講義	実務経験の有る教員による科目		
授業の到達目標 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。						
授業の概要 ① 認知症を取り巻く状況 ② 医学的側面から見た認知症の基礎 ③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④ 連携と協働 ⑤ 家族への支援						
授業計画 第1回 認知症の基礎的理解の復習(脳のしくみ) 第2回 医学的側面から見た認知症の基礎(AD VaD) 第3回 医学的側面から見た認知症の基礎(DLB FTLD) 第4回 医学的側面から見た認知症の基礎 間違えられやすい病気 第5回 医学的側面から見た認知症の基礎 若年性認知症 MCI 認知症ケアの理念と視点 第6回 認知症の診断と治療 第7回 認知症の診断と重症度 第8回 中核症状とBPSDの復習 第9回 BPSDの対応 第10回 まとめ						
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座12 発達と老化の理解」 中央法規2019年						
授業時間外での学習 授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準 前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。 評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次	回数	20 回	時間数	40 時間
科目名	障害の理解	授業の方法	講義	実務経験の有る教員による科目		
授業の到達目標 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。						
授業の概要 ① 障害の基礎的理解 ② 障害の医学的側面の基礎的知識 ③ 連携と協働 ④ 家族への支援						
授業計画 第1回 障害福祉の基本理念 第2回 障害のとらえ方 第3回 障害のある人の神経を踏まえたアセスメントの視点 第4回 肢体不自由のある人の生活① 第5回 肢体不自由のある人の生活② 第6回 知的障害のある人の生活 第7回 精神障害のある人の生活 第8回 発達障害のある人の生活 第9回 高次機能障害のある人の生活 第10回 重症心身障害のある人の生活 第11回 精神障害のある人の生活① 第12回 精神障害のある人の生活② 第13回 精神障害のある人の生活③ 第14回 難病の人の生活 第15回 まとめ 第16回 障害の概念 我が国における障害者の法的定義と障害者の概数 第17回 国際障害分類と国際生活機能分類 第18回 障害者福祉の基本理念 第19回 障害のある人の生活の理解(身体障害者) 第20回 障害のある人の生活の理解(知的障害者)						
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座8 障害の理解」 中央法規2019年						
授業時間外での学習 授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準 前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。 評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次	回数	10 回	時間数	20 時間
科目名	障害の理解 2	授業の方法	講義	実務経験の有る教員による科目		
授業の到達目標 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。						
授業の概要 ① 障害の基礎的理解 ② 障害の医学的側面の基礎的知識 ③ 連携と協働 ④ 家族への支援						
授業計画 第1回 障害のある人の生活の理解(精神障害者) 第2回 障害のある人の生活の理解(発達障害者) 第3回 障害のある人の生活の理解(難病) 第4回 障害のある人に対する介護(基本的視点、障害受容、心理的影響) 第5回 障害のある人に対する介護(障害に伴う生活の変化と影響、個別支援) 第6回 障害のある人に対する介護(介護過程) 第7回 家族への支援 第8回 社会資源の利用と開発 第9回 地域におけるサポート体制 第10回 多職種との連携と協働(専門職とチームアプローチ)						
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座8 障害の理解」 中央法規2019年						
授業時間外での学習 授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準 前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。 評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次前期	回数	15 回	時間数	30 時間
科目名	こころとからだのしくみ I	授業の方法	講義 実習	実務経験の有る教員による科目		
授業の到達目標						
介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する						
授業の概要						
①介護サービスを提供する際に必要な観察力と判断力の根拠となる人間の心のしくみの基礎を学ぶ						
②自分が「こころ」の問題によく面した時の対応を学び、説明ができる。						
授業計画						
第1回	健康とは何か					
第2回	心のしくみを理解する(人間の欲求)					
第3回	心のしくみを理解する(自己実現と尊厳)					
第4回	心のしくみを理解する(脳)					
第5回	心のしくみを理解する(認知)					
第6回	心のしくみを理解する(記憶)					
第7回	心のしくみを理解する(思考)					
第8回	心のしくみを理解する(学習)					
第9回	心のしくみを理解する(感情)					
第10回	心のしくみを理解する(動機付け)					
第11回	心のしくみを理解する(適応)					
第12回	対人関係(印象、好意)					
第13回	こころの発達とライフサイクル					
第14回	ストレスとメンタルヘルス					
第15回	カウンセリングと心理療法					
テキスト						
介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座11こころとからだのしくみ」 中央法規2019年						
授業時間外での学習						
授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準						
前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。						
評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。						
60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次後期 2年次前期	回数	30 回	時間数	60 時間
科目名	こころとからだのしくみⅡ	授業の方法	講義 実習	実務経験の有る教員による科目		
授業の到達目標						
こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、根拠となる知識を理解できる。						
授業の概要						
①こころとからだのしくみを理解する事ができる。 ②心身の状態が日常生活にどのように関与しているのかそのしくみについて説明ができる。 ③利用者の状態にあった適切な介護方法を説明できる。						
授業計画						
第1回	こころのしくみ(欲求、自己実現)					
第2回	からだのしくみ(基礎)					
第3回	からだのしくみを理解する(脳、神経)					
第4回	からだのしくみを理解する(感覚器、骨)					
第5回	からだのしくみを理解する(内臓 消化器)					
第6回	からだのしくみを理解する(呼吸器 循環器)					
第7回	移動のしくみ(移動のしくみ)					
第8回	移動のしくみ(身体機能)					
第9回	移動のしくみ(精神機能)					
第10回	移動のしくみ(変化の気づき・対応)					
第11回	身じたくのしくみ(身じたくのしくみ)					
第12回	身じたくのしくみ(身体機能、精神機能)					
第13回	身じたくのしくみ(変化の気づき・対応)					
第14回	食事のしくみ(食事のしくみ)					
第15回	食事のしくみ(身体機能)					
第16回	食事のしくみ(精神機能)					
第17回	食事のしくみ(変化の気づき・対応)					
第18回	排泄のしくみ(排泄のしくみ)					
第19回	排泄のしくみ(身体機能)					
第20回	排泄のしくみ(精神機能)					
第21回	排泄のしくみ(変化の気づき・対応)					
第22回	入浴、清潔の保持のしくみ(入浴のしくみ)					
第23回	入浴、清潔の保持のしくみ(身体機能)					
第24回	入浴、清潔の保持のしくみ(精神機能)					
第25回	入浴、清潔の保持のしくみ(変化の気づき・対応)					
第26回	睡眠のしくみ(睡眠のしくみ)					
第27回	睡眠のしくみ(身体機能、精神機能)					
第28回	睡眠のしくみ(変化の気づき・対応)					
第29回	死にゆく人に関連したしくみ(身体機能、精神機能)					
第30回	死にゆく人に関連したしくみ(連携)					
テキスト						
介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座11こころとからだのしくみ」 中央法規2019年						
授業時間外での学習						
授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準						
前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。						
評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。						
60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次	回数	15 回	時間数	30 時間
科目名	こころとからだのしくみⅢ	授業の方法	講義 実習	実務経験の有る教員による科目		
授業の到達目標						
こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、根拠となる知識を理解できる。						
授業の概要						
①心身の状態が日常生活にどのように関与しているのかそのしくみについて説明ができる。 ②利用者の状態にあった適切な介護方法を説明できる。 ③体験した事例を根拠に分析、考察し次の支援につながる力を身に付け、実践できる。						
授業計画						
第1回	こころとからだのしくみⅠの復習(総論)					
第2回	こころとからだのしくみⅠの復習(各論)					
第3回	移動のしくみ(身体機能、精神機能) 事例					
第4回	移動のしくみ(変化の気づき・対応) 事例					
第5回	身じたくのしくみ(身体機能、精神機能) 事例					
第6回	身じたくのしくみ(変化の気づき・対応) 事例					
第7回	食事のしくみ(身体機能、精神機能) 事例					
第8回	食事のしくみ(変化の気づき・対応) 事例					
第9回	排泄のしくみ(身体機能、精神機能) 事例					
第10回	排泄のしくみ(変化の気づき・対応) 事例					
第11回	入浴、清潔の保持のしくみ(身体機能、精神機能) 事例					
第12回	入浴、清潔の保持のしくみ(変化の気づき・対応) 事例					
第13回	睡眠のしくみ(身体機能、精神機能) 事例					
第14回	睡眠のしくみ(変化の気づき・対応) 事例					
第15回	死にゆく人に関連したしくみ 事例					
テキスト						
介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座11こころとからだのしくみ」 中央法規2019年						
授業時間外での学習						
授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準						
前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。 評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次前期	回数	9 回	時間数	13 時間
科目名	医療的ケア実施の基礎	授業の方法	講義	実務経験の有る教員による科目		
授業の到達目標 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。						
授業の概要 1.医療的ケアに関して、チーム医療と連携の必要性が説明できる。 2.安全に痰の吸引や経管栄養を提供することの重要性を説明できる。 3.感染予防について説明できる。 4.健康状態の把握ができ、急変状態の対応と報告ができる。						
授業計画 第1回 オリエンテーション 医療的ケアとは 第2回 保健医療制度とチーム医療 第3回 安全な療養生活(医療的ケアの安全な実施) 第4回 安全な療養生活(救急蘇生) 第5回 清潔保持と感染予防(感染予防) 第6回 清潔保持と感染予防(清潔・消毒・滅菌) 第7回 健康状態の把握(身体・精神の健康) 第8回 健康状態の把握(バイタルサイン 急変時の対応) 第9回 健康状態の把握(バイタルサイン測定)						
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座15 医療的ケア」 中央法規2019年						
授業時間外での学習 授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準 前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。 評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次前期	回数	13 回	時間数	19 時間
科目名	医療的ケア実施の基礎	授業の方法	講義	実務経験の有る教員による科目		
授業の到達目標						
喀痰吸引に必要な 人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応など、喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識と実施手						
授業の概要						
1.呼吸のしくみと痰の吸引について説明できる。 2.安全で適切な痰の吸引の手順が説明できる。 3.痰の吸引を必要とする人の、日常生活の変化に気づき、医療者に報告することができる。						
授業計画						
第1回 呼吸のしくみとはたらき						
第2回 喀痰吸引						
第3回 人口呼吸器と吸引						
第4回 子どもの吸引						
第5回 説明と同意						
第6回 呼吸器系の感染と予防説明						
第7回 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認						
第8回 口腔内吸引の実施手順						
第9回 鼻腔内吸引の実施手順						
第10回 気管カニューレ内吸引の実施手順						
第11回 口腔内吸引の実施						
第12回 鼻腔内吸引の実施						
第13回 気管カニューレ内吸引の実施						
テキスト						
介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座15 医療的ケア」 中央法規2019年						
授業時間外での学習						
授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準						
前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験、実技試験を行う。 評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次	回数	12 回	時間数	18 時間
科目名	経管栄養	授業の方法	講義	実務経験の有る教員による科目		
授業の到達目標 経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実						
授業の概要 1. 経管栄養のしくみについて説明できる。 2. 安全で適切な経管栄養の手順を説明できる。 3. 経管栄養を必要とする人の、日常生活の変化に気づき、医療者に報告することができる。						
授業計画 第1回 消化器系のしくみとはたらき 第2回 経管栄養 第3回 経管栄養実施上の留意点 第4回 子どもの経管栄養 第5回 経管栄養に関する感染と予防 第6回 説明と同意 第7回 急変・事故発生時の対応 第8回 胃ろうによる経管栄養の実施手順 第9回 経鼻による経管栄養の実施手順 第10回 胃ろうによる経管栄養の実施 第11回 経鼻による経管栄養の実施 第12回 報告および記録 経管栄養のまとめ						
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座15 医療的ケア」中央法規2019年						
授業時間外での学習 授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。						
成績評価の方法・基準 前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験、実技試験を行う。 評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。						

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次前期	回数		時間数	2 時間
科目名	医療的ケア 演習	授業の方法	演習	実務経験の有る教員による科目		
<p>授業の到達目標</p> <p>医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>1.喀痰吸引 演習 2.経管栄養 演習 3.救急蘇生 演習 ④ 演習</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) 第2回 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) 第3回 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) 第4回 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) 第5回 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) 第6回 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) 第7回 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) 第8回 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) 第9回 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) 第10回 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) 第11回 心肺蘇生 演習 第12回 心肺蘇生 演習</p>						
<p>テキスト</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座15 医療的ケア」中央法規2019年</p>						
<p>授業時間外での学習</p> <p>授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。</p>						
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>履修範囲について実技試験を行う。 評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。 60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。</p>						